

答え合わせ・解説

問1	答え 1 盛岡市	岩手県の県庁所在地である盛岡市は、東北地方の内陸部（北上盆地）に位置しています。このため、緯度の高さに加えて内陸性の気候特性を持ち、年平均気温は約10度と低く、冬の寒さが厳しいのが特徴です。選択肢の秋田市は日本海側に位置し冬の降水量（雪）が多い特徴があり、仙台市は太平洋側沿岸部に位置します。名古屋市は中部地方の都市であり、年平均気温はより高くなります。
問2	答え 1 やませ — 低温でも育ちやすい稲の品種改良	東北地方の太平洋側に初夏から夏にかけて吹く冷涼な北東風は「やませ」と呼ばれます。この風が長期間吹くと日照不足や低温を招き、農作物が育たなくなる「冷害」を引き起こします。これに対し、農業試験場などでは複数の品種を試験栽培し、寒さに強い品種を開発・普及させる「品種改良」を行うことで、安定した収穫量を確保する対策を講じてきました。
問3	答え 1 城下町	石川県の県庁所在地である金沢市は、加賀藩の城である金沢城を中心に発展した代表的な城下町である。長野県の長野市のような門前町（寺社の門前に形成）や、物資の輸送拠点で発達する港町とは区別して理解する必要がある。
問4	答え 1 盆地	内陸部において周囲を山に囲まれた低地を「盆地」と言います。東北地方では山形盆地や福島盆地が代表的です。これらの地域は、山から流れる河川によって運ばれた土砂が堆積してできた扇状地などが発達しており、水はけが非常に良いため、米作りよりも果樹栽培に適しています。
問5	答え 1 奥羽山脈と地熱発電	東北地方の「背骨」とも呼ばれる奥羽山脈は、多くの火山が連なる火山帯に位置しています。この火山活動による熱源を利用して、地中から取り出した蒸気や熱水でタービンを回す「地熱発電」が盛んに行われています。飛騨山脈は中部地方（日本アルプス）に位置する山脈であるため、東北地方の説明としては誤りです。
問6	答え 1 夏にオホーツク海側から吹き込む、冷たく湿った北東の風の影響	東北地方の太平洋側で記録された平均気温の低下と米の減収は、冷たく湿った北東の風である「やませ」による冷害が原因です。特に1993年は歴史的な記録不足（平成の米騒動）として知られています。選択肢にある「山を越えて吹き下ろす高温で乾燥した風」はフェーン現象、「冬に吹く乾燥した北西の風」はからっ風の説明であり、これらは冷害の直接的な原因とはなりません。
問7	答え 1 オホーツク海高気圧から吹く冷たく湿った北東の風が、太平洋側に冷害をもたらすため。	東北地方の太平洋側で米の作況指数が低下する主な要因は、初夏に吹く「やませ」による冷害です。この風は北東の海から吹き込むため、奥羽山脈よりも東側の太平洋側で特に気温が上がりにくくなります。これに対し、日本海側は山脈が冷たい風を遮る壁となるため、太平洋側に比べて冷害の影響を受けにくいという特徴があります。
問8	答え 1 本州で最も広い面積を持つ県の県庁所在地は盛岡市であり、北上盆地を中心に農作物の栽培が行われている。	岩手県は本州で最大の面積を持ち、その県庁所在地は盛岡市です。宮城県の県庁所在地は仙台市であり、宮城市ではない点に注意が必要です。山形県はサクランボの生産で有名ですが、県名と県庁所在地（山形市）は一致しています。東北地方で県名と都市名が異なるのは、岩手県（盛岡市）と宮城県（仙台市）の2県のみです。
問9	答え 1 やませ	東北地方の太平洋側で、親潮の上を通る冷たい空気が、オホーツク海高気圧から北東の風として流れ込む現象を指します。この風が長く続くと、日照不足と低温によって深刻な冷害をもたらす要因となります。